優秀賞（京都府教育委員会教育長賞）

ロシア人と日本人、何故仲良くする？

京丹波町立和知中学校
二年　和田　恵美

日本人は本当ならもっと怒っていいはずだと思った。自国の島を武力で奪われたのだから。

だが、今、島を奪われた日本と奪ったロシアが交流をしている。不思議に思った私は、その問題についていろいろと考えてみた。

北海道の北東部に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島。それが北方領土である。私が北方領土について知るきっかけとなったのは、社会科での校長先生の授業だった。私は最初、北方領土の授業があまり楽しみではなかった。なぜなら、北方領土という言葉自体が難しそうで考えにくいと思ったからだ。しかし、ある一つの話がとても心に響いた。それは校長先生が実際に色丹島に行かれたという話だ。

そこでは、今はロシアが島を占領しているということやその島には昔多くの日本人が住んでいたということなど、いろいろなことを知った。そんな中、一つ考えたことがある。何故ロシアは四島を返還しないのか。島のロシア人によると、

その一、その土地を発見したのは誰か？

その二、その土地を開発したのは誰か？

その三、今、その土地に住んでいるのは誰か？

どれもロシア人、だから北方領土はロシアのものということになるらしい。そうだろうか。いや、やっぱり日本のものだと思った理由が私にはある。今、北方領土に住んでいるのがロシア人でも、昔、日本人が最初に島に到達し、そこを開拓して住んでいたところに勝手にロシア人が来て島を奪ったのだから、やっぱりロシアの方がおかしいと思う。

でも私は全体を通して疑問に思ったことがある。もともと日本人が住んでいた島をロシア人に奪われ、ここに住みたかったら国籍を変えてでもロシア人になれと言われ、日本人は島から追い出されたらしい。それなのに、何故ロシア人と日本人が仲良く交流をしているのか。

私はその理由を知りたくて、校長先生に聞いてみた。その結果、私は納得した。

「日本人は優しい」

ということ。だからロシア人は日本人に好意的だということだ。昔、四島で地震が起こった時、普通ならロシアが助けに来るはずだったが、モスクワから北方四島は遠いので助けが遅れた。しかし四島に近い日本は、すぐに助けに来てくれたというのだ。そこから島に住むロシア人は日本人が好きになり、今まで以上に交流を進めたそうだ。このことは同じ日本人として本当に嬉しいことだ。そういうことだったのかと私は感心した。

最後に、北方領土について学んで考えたことがある。怒りの気持ちを乗り越えて、他国と交流を進めることは大切なことだということ、そして色々あったとしても、交流して仲良くすることがこの問題を解決するために必要だということである。

とかく日本人の優しさは厳しい国際関係の中では評価されないことがあり、強い日本を求める声もある。だが今回の学習で、日本人の優しさこそが国際問題を解決するキーワードになるかもしれないと感じた。

私はこの授業をきっかけに、もっと社会科を学習したいと思った。

優秀賞（京都市教育長賞）

北方領土問題解決を目指して

京都市立北野中学校
三年　伊藤　ひな

日本には、解決できていない様々な国際間の問題があります。領土問題はそのうちの一つです。その中でも北方領土問題は、元島民の皆さんが返還を強く望んでいる問題です。では、なぜいまだに解決されないのでしょうか。北方領土は、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島からなる島々のことです。日本は、元々北方四島に定住していたアイヌの人々との交流を深め、交易を行っていましたが、一八世紀末、ロシアの南下を警戒し、江戸幕府の直轄地として開拓しました。南下を進めるロシアとは、日魯通商条約を結び、日露領国の国境を択捉島と得撫島との間とすることが定められました。それから戦後に至るまで、この島々では開拓が進められて人口も増え、多くの日本人が住む土地となっていきました。

このように、北方四島は今までに他国の領土となったことは一度もありません。ですから、北方四島は今でも「日本固有の領土」なのです。しかし、現在はロシアに不法に占拠されています。元島民の皆さんは、戦後、引き上げ命令により北方四島から追い出され、今も故郷に帰ることができない状況に置かれています。

元島民の皆さんは返還を求め様々な活動を行っておられます。しかし、日本国民の多くはその活動を詳しく知らず、さらに北方領土問題についても広く知らされることはありません。私も学校の社会科の授業で触れられる程度で、深く知りませんでした。また、解決されない理由として、日本とロシアがそれぞれに主張し合い、お互いを理解できていないという点も考えられます。北方領土問題の平和的な解決を目指すには、この問題が日本でもロシアでも広く多くの人々に知られ、理解される必要があります。

元島民のみなさんの望みは、日々強くなっていくばかりです。しかし、元島民の高齢化は進み、このままでは強く訴える人がいなくなって、未解決のままになってしまうかもしれません。一刻も早い解決を目指して、私たちが行動を起こすべきです。ただ、ロシア政府に直接訴えるような大それたことはできません。しかし、この問題について関係する新聞を注意深く見たり、専門家の意見を聞いたりして、より深く調べたことを、あまり関心をもっていなかった人や次の世代に伝えていくことはできます。また、署名運動に参加するような活動もできます。小さなことでも、きっと北方領土問題の解決に繋がるはずです。私たちの世代も、みんなで取り組んでみませんか。

私たち国民も力を注ぎ、元島民の望みを叶えられるように、北方領土問題の一刻も早い平和的な解決を心より願っています。

優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）

両国の合意で成り立つ島に

京都府立園部高等学校附属中学校
三年　勝部　羽那

『千島慕情』という詩がある。及川小甫という人が作詞し、詩吟として広く吟じられている北方領土返還を叫ぶ詩だ。

「北方領土は日本固有の領土」だと、私は小学校のころから先生に教わってきた。地理などの授業で配布された資料にも必ず明記されていたこととして、過去に日露間では様々な条約が結ばれ、千島列島や樺太は両国どちらの領土にもなったことがあったが、北方領土である択捉島、色丹島、国後島、歯舞群島はずっと日本の領土だったとあった。さらに一八五五年の日露和親条約で日本とロシアの国境が初めて決まったとき、北方領土は日本の領土とされ、実際多くの日本人が住んでいた。これらを理由に、日本は「北方領土は日本固有の領土」だと主張している。わたしも日本人だからか、日本の主張が正しく思えた。でも、ロシアの人々はどのように考えているのだろうか。

そこで、ロシア側の主張も詳しく調べることにした。まず、一九五六年に締結した日ソ共同宣言で、歯舞群島と色丹島の二島を「平和条約締結後」に返還するとあることだ。この宣言を順守することで手を打とうという主張だ。また日ソ中立条約を先に破ったのは日本側であるという主張もある。第二次世界大戦時、日本は満州で演習という名目の軍事行動を行った。これによりソ連軍の一部をひきつけ、当時ソ連軍の敵であったドイツ軍を間接的に援護したことになる。さらにロシア側は千島列島には北方領土を含むものとして解釈されるとしている。日本政府もかつて千島列島に北方領土を含めた意味で使っていると考えられる条約もある。

そして何よりも重要なことは、島でロシア人が暮らしを営んでいるということだ。島での平均年齢は三四歳。島で生まれた子供たちももちろんいる。島は元島民である日本人にとっても、現島民であるロシア人にとっても「故郷」なのだ。

「島よ帰れ、島よ還れと命の限り叫ばん」

これは冒頭で述べた『千島慕情』の一節である。島を強制的に追い出された人々のことを思うと、胸に突き刺さる言葉だ。だが、現状には合わない言葉でもある。日本人だからといって日本側だけに立ってはならない。歴史を学ぶことは大切だが、過去に惑わされてもならない。自国の利益のみを優先させてはならないのだ。

これらのことから私は、北方領土を日本とロシアの雑居地にすればよいのではないかと思う。資源や経済の面では、話はややこしくなるかもしれない。だが、目の前の面倒事よりも、その先にある島の姿を想像してみてほしい。現場の人々が直接対話を重ね分かち合うことで、島独自の新しい文化が栄える素晴らしい島を。母語が違っても何の問題もないと実証できる島を。あなたは見たいと思わないか！

優秀賞（北方領土問題対策協会理事長賞）

北方領土の早期返還に向けて

京都市立嵯峨中学校
三年　前田　涼真

北方領土。それは、昔から多くの日本人が守り、受け継いできた我が国固有の領土だ。また、自然も豊かで、愛され続けてきた領土である。ロシアとも日露通好条約以来、北方領土が日本の領土だと、平和的に法的に決められた。しかしロシアは、当時まだ有効だった日ソ中立条約を一方的に破った。そして終戦後も、戦争を続け、北方領土を武力で奪い取った。その後今日に至るまでロシアの不法占拠が続いている。

ぼくは、いまだ不法占拠が続いているのは、異常なことだと思う。法的に認められたわが国固有の領土を、武力を使って奪ったロシアの行為は許されるものではないと思う。なぜなら、このソ連軍の攻撃、ロシアの不法占拠は、北方四島の領土だけではなく、さまざまなものが奪われたからだ。例えば、強制退去によるただ平和にくらしていた関係のない人の命。それまでの北方四島での生活。日本とロシアとの信頼関係。他にもいろいろ奪われてしまった。

そこでそんなわが国固有の領土を、ロシアから日本へ帰属させなければならない。それが今の自分たちの使命だと思う。その後は日露間での平和条約を、少しでもはやく締結し、互いに信頼しあった、親密なる関係を築く必要があると思う。

だから、日本政府も帰属を目指して、さまざまな取り組みを行っていて、少しずつ、着実に進んでいる。両国の首脳会議では、北方領土問題と日露間の平和条約の早期解決が確認された。

しかし、政府だけがどんなに一生懸命になっても解決しないと思う。そこに、国民の声があってこそだと思う。歴史を振り返ると、国民の声が多くのことを変えてきた。だから今、ぼくたちもこの問題についての自分たちの考えを、しっかりとした根拠とともに、発信していかなければならないと思う。たとえ大きなことはできなくても、家族や友達とこの問題について語ってみるだけでもいいと思う。そうした小さな取り組みが大きな結果につながると思う。

一つ忘れてはいけないことは、北方領土にはロシアの人が住んでいるから、その人々の人権などをしっかり尊重すること。そして北方領土が日本に帰属した日が、両国民が納得のいくすばらしい記念の日になることが大切だと思う。それでこそ平和的な解決だと思う。

わが国固有の領土である北方領土が一日でも早く返還されることを目指して、行動していきたい。

優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）

北方領土問題について思うこと

京都府立洛北高等学校附属中学校
二年　溝渕　こなつ

北方領土についてあなたはどれぐらい知っているだろう。日本とロシアが領有権を争っている。日本はまだ有力な手立てを打つことができておらず、少なからずロシアの思うままに編入されている。この程度のことはほとんどの人が知っているだろう。しかし、まだまだ理解不足な点が多く、自分には関係ないと思っている人もいるのではないだろうか。私もそうだった。あのニュースを見るまでは…

先日、私はニュース番組で北方領土についての特集を目にした。初めは何となく聞き流していたが、ある言葉に耳を疑った。それは北方領土で生まれ育った方の言葉だ。

「学校や家にソ連兵が押し寄せ、金品や高価なものは持って行かれ、家は立ち退きを余儀なくされた。少ししか収容所へ強制送還され、それから島へは戻っていない。」

私は深く驚いた。そして胸が苦しくなった。北方領土という四つの島だけではない。島民の故郷を愛する心さえ奪われてしまったのだ。おかしくないか。これだけのことがあるのに、社会は北方領土問題について深く触れようとしない。本来住むべき故郷に七〇年も帰れず、懐かしい故郷を想ったまま、寂しく亡くなっていく人もいる。

これは政府だけの問題だろうか？　もっと日本とロシアで話し合いの場を設けるべきではないだろうか。それだけではないと思う。日本の国民一人一人が北方領土問題について深く知り、考えるべきだと思う。「関係ない」なんて言えないと思う。自分の住む町が、愛する故郷がある日突然知らない国、知らない人にとられてしまったら…。恐ろしい。故郷に帰れないまま命を落としていく人もいただろう。もう、そんな人は増やしたくない。

今、好きな場所で安全に安定した生活を送っていることは、決して当たり前ではない。私は大切な人と安心できる暮らしを大切にしたい。そして一刻も早く大好きな北方領土に帰れる人を増やすため、政府だけでなく、私たちや大人、社会全体がもっと知識を深め考えるべきだろう。

北方領土問題はまだ解決の糸口が見えていない。この問題を動かすのは、外交官でも政府でも総理大臣でもない。私を含め日本国民一人一人が「キーパーソン」となるべきだと思う。

優秀賞（北方領土返還要求京都府民会議会長賞）

北方領土への意識の差と違い

京都市立中京中学校
三年　越村　紗和子

私は、北海道の北東の北方領土問題は日本の問題なのに、ほとんどの人が「北方領土がロシアに占拠されている」ということしか知らないと思います。北海道や昔、北方領土に住んでいた人たちなら、この問題はとても身近なものだと思います。

しかし、本州など他の地域に住んでいて、北海道なんて行ったことがないという人にとって、この問題はわからないことだらけだからで、「どうやっても解決するのは難しい」という印象しかないと思っています。実際に私もどうやって解決すればいいのか、自分にできることはあるのかわからない、知らないことだらけです。

中学校で使う社会の教科書には、今までロシアと日本の間で結ばれてきた条約、起こった出来事が載っています。でも、今、北方領土に住んでいる人がなぜ北方領土に住んでいるのか、ロシアはこの問題についてどう思っているのか、人の考えは教科書には載っていません。

私は、北方領土に行って住んでいるロシアの人と、同年代のロシアの学生に意見を聞いてみたいです。日本で子どもたちに教えられていることと違いがあれば、これから先もずっと日本とロシアの考えの差が出たままだからです。考えに差があれば、国と国同士の話し合いの場で互いの意見を言ってもお互い「何をロシア、日本は言っているんだ」となりかねないからです。

私には、北方領土まで行く時間とお金もありません。できることと言えばインターネットでこの問題について調べることぐらいだと思っていろいろなサイトを見ていると、あることに気がつきました。「北方領土について何かできることはないのか」という質問が多いことです。また、その質問に対して「何もできない」と答えている人や、「署名やデモは？」と具体的な行動で答えている人がいました。私は、何もできないと答えている人は、私と同じように自分のことで精一杯なのだと思います。でも一つ、私が思いついた誰にでもできる行動があります。それは、自分の周りの人に「北方領土問題って知っている？」と尋ね、意見を言い合って少しでも考えを深めることです。

最初にも書いた通り、北海道や昔、北方領土に住んでいた人と私たちには意識に差があると思います。ならば、北海道の人々より意識が低いであろう私たちができることは、日ごろの話題でこの問題について話し、少しでも意識を上げていくことだと思います。

優秀賞（京都新聞賞）

着実な一歩を求めて

宮津市立養老中学校
三年　松本　樹絵里

あなたは、二月七日が何の日か知っているだろうか。私は、この北方領土の作文を書くにあたって、気になったことなどをいろいろ調べてみた。すると二月七日は「北方領土の日」となっていた。これは、一八五五年に日本とロシアが日露和親条約を結んだ日である。そして、一九八一年に閣議了解で、二月七日を「北方領土の日」と決めたそうだ。私は、こんな日が決められていたなんて知らなかった。もしかしたら、この作文を書く機会がなかったら、この先ずっと知ることもなかったかもしれない。

ここで、私の中に一つの疑問が浮かんだ。テレビやニュースでこれだけ取り上げられているのに、私たち若い世代が、北方領土問題についてあまり理解していないのではないかということだ。「領土返還に向けて・・」と呼びかけられても、残念ながら自分とは無関係に思ってしまう。自分が考えて何か変わるのだろうか、領土問題なんて難しそう、という考えを持つ人もいるだろう。残念なことではあるが、今の若い人たちにとって領土問題への関心は高いとは言えない。

私は、少しでもこのような状態から抜け出せるような取組が、全国規模であればよいと思う。例えば、二月七日「北方領土の日」を、もっと「知っているのが当たり前」というような日にするべきだと思う。二月七日に北方領土に関するイベントを行ったり、北方領土について学べる講座を開いたりするのはどうだろうか。イベントは難しいかもしれないが、講座なら学校でもできるのではないか。その講座を受けることで自分たちの中にも知識が身につき、少なくとも無関心ではいられなくなるはずだ。この「北方領土についての作文」を書く取組も、領土問題に関する知識を深めることができるので良いと思う。

私自身、この作文で北方領土問題、また日本の様々な領土問題に興味を持つことができた。この興味をこれからもなくさないようにしたい。

そもそも北方領土問題は、日本だけの問題ではない。日本とロシアの問題なのだ。だから、どちらかの国の勝手な意向で決めることはできない。両国が納得のいく解決策を導き出すことが大切だ。いわゆるＷＩＮ・ＷＩＮの関係になるまで、何年何十年かかるのかはわからないが、安倍首相のことばのように「着実に一歩一歩前進」が大切なのかもしれない。

優秀賞（京都新聞賞）

北方領土問題を平和的な解決で

京都市立北野中学校
三年　岡野　奈於

私は今まで、北方領土問題について、小学校の社会科の授業で「日本の北端にある、かつては日本の領土であったが、現在はロシアに占領された地についての問題」と、そういえば学習したことがあると思うぐらいでした。しかし、中学の社会科の授業で北方領土についてのビデオを見て学習したり、今回の作文を書くにあたり、いろいろ調べてみると、北方領土問題についての思いや、どうすればよいのかなど、私の中でいくつか考えが出てきました。

まず、日本は「北方領土は日本固有の領土である」と主張していますが、実際にかつては約二万人の日本人が住み、豊かな水産資源が取れることから昆布や鮭などの漁業が盛んだったそうです。

さらに、北方領土のうちの一つである択捉島には日本人が建てた「紗那郵便局」という建物が今も残っているそうです。ですが、太平洋戦争後、当時ソ連だったロシア軍に不法に占拠され、住んでいた日本人は自力で島を脱出したり、ソ連軍に追い出されたりしました。そして、占領されている状態が現在も続いているのです。私はビデオで、元々北方領土の一つである国後島に住んでいた日本人の方の話が、すごく印象に残っています。

「生まれ故郷を返してほしい」と切実に願っておられる様子は、私がもし同じ立場でも、同じことを願うだろうと強く感じさせるものでした。

一方、今の北方領土に住むロシア人の人からすると、もし北方領土が日本に返還されてしまうと、住むところがなくなるだけでなく、現在のロシアに対する元島民の日本人の方の思いと同じように、「生まれ故郷を返してほしい」や「私たちの居場所を返せ」となってしまうのではないでしょうか。現在の北方領土に住んでいるロシア人は、何も悪いことはしていませんし、責任もありません。

このように、日本人とロシア人のそれぞれの立場で考えてみると、この問題をどうすればよいか迷ってしまいます。

そこで、まずは交流してお互いの文化などに触れたり、意見を交換したりという友好的な関係を育むことが大事です。また、ロシア人と北方領土で共同生活することができれば北方領土問題の解決に一歩近づけると思います。

次に、この北方領土問題を時が過ぎても風化させないことです。私もそうであったように、北方領土問題をあまり知らない人が多いと思います。返還運動や交渉をこれから進めていくためには、日本国民一人ひとりが考えていかなければならないもので、決して無関心な人を増やして風化させてはいけません。

このような解決策について、いずれも私は他人事にせず、北方領土は歴史的にも国際法的に見ても日本の領土なので、周りの人に呼びかけたり、北方領土についての行事などに参加してみたりしたいと思います。時間はかかるかもしれませんが、平和的にこの問題が解決して、いつか北方領土が日本に返還されることを望みます。

優秀賞（ＫＢＳ京都賞）

ともに手を取り合う未来へ

京都府立福知山高等学校附属中学校
二年　糸井　瞳子

今回、授業で北方領土問題について学び、現地の様子を映像で見て私は驚きました。

ごく普通に生活するロシア人たち。立ち並ぶロシア語で描かれた看板のお店。まるでもとからロシアの領土だったように、人々の生活の風景が島に馴染んでいるからです。勿論日本人は一人もおらず、日本の面影は全くないといってもよいかもしれません。

私はこれまで北方領土についてよく知りませんでした。ニュースで見たことは何度もあるし、小学校の教科書に載っていたような気もします。それでも詳しく知ろうとか、さらに調べようとは思わず、特に気にとめていませんでした。

ですが、今回改めて北方領土問題について調べ、複雑な歴史があることを知りました。きっかけは、第二次世界大戦での日本の敗戦です。敗戦で立場が弱まり、何も言えなくなった日本をソ連が侵攻し、今もなお支配され続けている地が北方領土なのです。しかし四島には、生活のための新天地を求めて本島から移住し、一生懸命開発した多くの日本人の歴史があります。かつては昆布漁やサケ・マス漁などで賑わいを見せていたその地には、現在は立ち入るどころか、近づくこともままならないそうです。しかも最近では、北方領土をさらに開発しようとするロシアの動きも見られるようになりました。

私はもちろん、日本側として北方領土を返してほしいです。私たちの国の人々が、歴史を刻んだ島だということをロシアの人々にも知ってもらいたいです。ですが、同時に今現在、北方領土で暮らす人々がいるということも忘れてはいけないと思います。戦後七〇年という時間の中で、この地で生まれたロシア人ももちろんいます。その方々には北方領土が生まれ育った故郷なのです。ただ一方的にいきなり追い出すのでは、また同じ事を繰り返すだけになるのではないでしょうか。

この一二月にはプーチン大統領が山口県を訪問し、日本政府と北方領土について交渉を行う予定だといいます。日本とロシア、双方がより良い方向へと進めたらそれはすごく素敵なことです。ですが、お互いにいろいろな事情、いろいろな思いがあるので簡単なことではないのも事実だと思います。

私が今、問題解決についてできることは、北方領土に対する正しい知識と自分の意見を持つことぐらいしかありません。本当に小さなことだし、互いの国が満足する結果になるかどうかもわかりません。それでも、目の色、髪の色、言葉の壁を越え、ともに手を取り合う未来が訪れるのを信じたいです。

優秀賞（ＫＢＳ京都賞）

世界で考える北方領土問題

京都市立嵯峨中学校
一年　田中　杏

北方領土問題という言葉は、ニュースなどでときどき聞いていましたが、詳しくは知りませんでした。今回の作文を書くという課題で様々なことを知ることができました。

この課題で知ったことは、いまだに故郷の北方四島に帰ることができていない日本の人々がいることや、現在は日本の領土でありながら、日本人が一人も住んでいないことです。また、日露間ではいまだに平和条約が締結されていないことも知りました。

一九四六年にソ連は四島を一方的に自国領に「編入」し、当時四島全体に約一万七千人住んでいたすべての日本人を強制退去させたと知り、僕には想像のつかない状況だと思いました。経験者の話を聞くと、ソ連兵が土足で家や教室に入ってきて、気に入ったものをすべて持っていったようで、まるで怖い映画の話を聞いているように思えました。当時の人々には、今だにとても深い心の傷が残っていると思います。

この北方領土問題ですが、僕も含めて関心のある人は多くないと思います。しかし、今回インターネットなどで調べてみると、北方領土の価値も分かってきました。美しい自然があるだけではなく、北方領土周辺の海には水産資源や地下資源が豊富にあるようです。だから、四島が日本に返還されると、今まで以上に日本が豊かになると思います。

では、この北方領土問題を平和的に解決するためにはどうすればよいのでしょうか。今までも、日本とロシアの首脳は会談し、「日露パートナーシップの発展に関する共同声明」が採択されました。両首脳は、平和条約問題の双方に受け入れ可能な解決策を作成する交渉を加速化させるとしています。この話を聞く限り、実際にはあまり解決に近づいていないように僕は感じました。そこには、どのような問題があるのでしょう。

僕が知らなかったように世の中には、北方領土問題について関心がない人は少なくないのではないかと思います。このことが解決につながらない原因の一つではないでしょうか。この原因をなくすために北方領土問題を身近な問題にすることが一番の近道のように思えます。例えば、学校の授業やニュースなどで子どもたちでも理解できるように、分かりやすく伝えていったり、家族で話す機会を設けるなど様々な取り組みをすることが今の僕たちにもできることなのではないかと思いました。

また、日本国内だけで議論するのではなく、ロシアを含め他の国の意見も参考にして世界で考えていけば、平和的に解決する良い策ができると思います。